

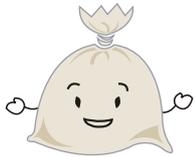
平成 18 年 3 月 31 日現在の人口 67,855 人で計算しています

40 万円の使い道

一般会計の歳出額約 267 億円を市民 1 人あたりで計算すると約 40 万円。
その 40 万円は次のように使いました。



学校教育や文化
スポーツのため
3 万 5 千円



ごみ処理や
環境を守るため
3 万 5 千円



市民の健康を
守るため
11 万 8 千円



消防や防災対策の
ため
1 万 8 千円



農林水産業・商工
業のため
2 万 3 千円



道路・公園など
まちの整備のため
5 万 4 千円



その他（市の運営
など）
11 万 7 千円



財政まめ知識

実質公債費比率とは

実質公債費比率とは、市全体の抱えている借金の返済に使われている一般財源（使い道の特定されない財源。例えば市税や地方交付税など）が標準財政規模（山陽小野田市が標準的に収入することができる一般財源）の中でどのくらいの割合を占めるかを示したものです。

この数値が一定の規模以上になると、段階的に地方債の発行が制限されることになります。

平成 17 年度決算において、県平均 18.1% に対して、山陽小野田市では 23.7% と高い数値となっていますが、今後は「公債費負担適正化計画」を策定し計画的に比率を引き下げていく予定にしています。

特別会計の決算

会計名	歳入	歳出
訪問看護ステーション事業	3,583 万円	2,888 万円
土地取得	2,958 万円	2,948 万円
駐車場事業	5,522 万円	2,867 万円
国民健康保険	65 億 4,007 万円	64 億 662 万円
介護保険	37 億 9,972 万円	37 億 8,704 万円
老人医療	85 億 8,851 万円	85 億 8,741 万円
地方卸売市場事業	1,956 万円	1,904 万円
下水道事業	33 億 2,638 万円	33 億 1,319 万円
農業集落排水事業	8,817 万円	8,786 万円
小型自動車競走事業	124 億 7,943 万円	134 億 8,504 万円

基金残高（現金）※一般会計と特別会計全ての基金残高です

●年度末時点（平成 18 年 3 月 31 日現在）

22 億 6,527 万円

●出納閉鎖時点（平成 18 年 5 月 31 日現在）

14 億 3,136 万円

一般会計とは

一般会計とは、市税を主な収入財源として、福祉、医療、ごみの収集、教育、消防など市民生活に欠かせない行政運営の経費や事務事業を網羅して経理する会計です。

特別会計とは

特別会計とは、特定の事業を行う場合や特定の収入で事業を行う場合に、経理を一般会計と区別する必要があるため、法律や条例に基づいて設置しているものです。山陽小野田市では 10 の特別会計を設けています。